

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2018年3月②

こんにちわ。鳥取県東南アジアビューローの辻です。

先日、バンコク郊外にある展示場「インパクト・ムアントンタニー」で開催された、東南アジア最大規模の車の見本市「第39回バンコク・インターナショナル・モーターショー2018」に行ってきました。今回はその様子をお伝えいたします。

今回で39回目を迎えるバンコクモーターショーは、今年はテーマに『Revolution in Motion (動きの革命)』を掲げ、日本の自動車メーカー各社(トヨタ、ホンダ、マツダ、いすゞ、日産、三菱、スズキ、スバル)や欧米・北米から合わせて20社以上の自動車メーカーが出展して盛大に開催されました。ここ数年の来場者数は160万人前後と、東京モーターショー(2017年77万人)の倍以上の規模となっており、タイ自動車業界の勢いを感じます。バンコクのモーターショーが日本や欧米のモーターショーと大きく違うのは、市販車のニューモデルや新しいコンセプトカーの発表の場としてだけではなく、ショーそのものが巨大な展示即売会としての役割を担っていることです。タイにおいて自動車の販売台数は景気を左右する為、その年のモーターショーでの成約台数が大きく注目されます。2012年には政府が行った「ファーストカー減税(初めて車を購入する人向けの優遇処置、ただし購入後5年間は買い替え禁止)」の恩恵により過去最高の5万台の成約を記録しましたが、その後、自動車の年間販売台数は長らく低迷を続け、モーターショーでの成約台数も昨年まで5年連続で前年を下回っていました。今年はファーストカー減税から5年が経ち、買い替え需要が見込めることや、一昨年10月に崩御されたラマ9世前国王の喪が明けたということもあり、前年比プラスに転じる期待が集まっていましたが、先日の主催者発表によると、今年の成約件数は前年比18%増の3万6587台と6年ぶりに前年を上回った結果となりました。



バンコクモーターショー会場内



商談用スペース

タイ政府が掲げる新経済戦略「タイランド4.0」でもターゲット産業とされている、次世代自動車のEV(電気自動車)の展示も多く見られました。中でもタイ資本の新しいEVブランド「MINE」は、太陽光発電や風力発電のプラントを展開するタイのエネルギー関連企業「エナジー・アブソリュート」がモビリティ産業への参入を目指して立ち上げたブランドで、3つの異なるコンセプトカーを初公開し、国内外のメディアから注目を集めていました。また、日本からも神奈川県川崎市の電気自動車ベンチャー



「MINE」のコンセプトカー

「FOMM」が出展し、4人乗りEVであるFOMM「ONE」を発表、予約販売の受付を行いました。



FOMM「ONE」の展示車

このFOMM「ONE」が特徴的なのは、排水路の不備などの原因で東南アジアで頻発する冠水・洪水などの水害に対応すべく、樹脂・アルミ等の軽材料の採用などによる車重の軽量化や電気系統に防水仕様を施し、ボートのように水上移動が可能な構造を採用している点です。タービン形状の前輪が回転するとタイヤの外側から内側へと水流が発生し、後方に吹き出すことで推進力を得る構造になっており、水中で人が歩く程度の速度で進むことができるそうです。タイでも雨季には毎年のように冠水・洪水が発生しているため、タイ市場での反応が楽しみです。ただ、タイではEVの普及がまだ進んでおらず、EV用の充電スタンドなどの充電インフラがほとんど未整備な状態であるため、政府による整備が待たれるところ

です。

タイの国柄が見える点としては、「タイの国民車」と言われるほどマーケットが大きな、ピックアップトラックの展示に各社が力を入れているところです。乗用車に比べて税金が安いことや、荷物も人もたくさん乗せられる（注：タイの地方では荷台に人を乗せているところをよく目にしますが、厳密には道交法違反です）点から、特に地方では主力ジャンルとして高い人気を誇っています。日本国内では乗用車の生産をしていないすゞのピックアップトラックはタイではとても人気があり、タイ国内のシェアも1位のトヨタに続き2位の座を獲得しています。



「タイの国民車」ピックアップトラックの展示



ロールスロイスの展示車

そんな庶民的な特徴とは対照的に、2017年の東京モーターショーには出展しなかったロールスロイス、ベントレー、ジャガーなどのハイエンドなブランドが出展していることは、タイをはじめとした東南アジア各国の富裕層の購買力の高さを象徴しているかのように思えます。

タイは日本と同じく“左側通行右ハンドル”であること、バンコクモーターショーが東南アジアで最も早く開催されることなどから、前年発表された新モデルの“右ハンドル仕様”がワールドプレミアとして発表されるのが慣わしとなっているため、日本の自動車ファンからの注目度も高く、関心を集めています。（今年もメルセデスベンツやBMWが日本未発売の右ハンドルモデルをワールドプレミアとして発表しました）

バンコクモーターショーの見学は今回が初めてでしたが、タイの自動車業界の「今」と「未来」に触れることができ、とてもいい体験をすることができました。今後もこの様なタイで行われる展示会のレポートも定期的に発信していきたいと思っています。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2018年3月②

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau

担当：辻 三朗 Saburo Tsuji

Address: 1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-632-8032

Mobile : +66-(0)-86-358-7298

Mail : tottori@aaph.com

当拠点の運営法人（鳥取県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。